



**Microsoft Power Apps、
Microsoft Power Automate、
Microsoft Power Virtual Agents
ライセンスガイド**

2021年5月

目次

購入方法.....	2
ライセンス プログラム	2
ライセンス方法.....	2
マルチプレキシング (多重化).....	2
外部ユーザーのライセンス要件	3
Power Apps サブスクリプション	3
Power Apps.....	3
Power Apps ポータル	7
Power Automate サブスクリプション.....	9
Power Automate.....	9
有人 RPA を含む Power Automate per user プラン.....	11
Power Automate 無人 RPA アドオン	12
Windows ライセンスに含まれる Power Automate の使用権	15
Power Virtual Agents サブスクリプション	17
サブスクリプション キャパシティ	19
キャパシティ アドオン	21
Dataverse (Common Data Service) キャパシティ アドオン	21
AI Builder キャパシティ アドオン	21
Power Apps および Power Automate キャパシティ アドオン	22
Power Virtual Agents キャパシティ アドオン	23
トライアルと実装.....	23
Power Platform サービスのサポート	23
価格.....	23
関連情報.....	23
付録 A: 用語とカスタム テーブル.....	24
付録 B: Power Platform の機能を含む Dynamics 365、Office 365、Windows のライセンス	26
付録 C: 変更履歴	29

このガイドの使用について

このガイドは、Microsoft Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents のライセンスについて理解を深めることを目的としています。

また、このガイドはマイクロソフトの製品やサービスの選択に影響を与えることを意図したものではありません。このガイドで取り上げる例は説明のみを目的としています。マイクロソフトは予告なくいつでもこのガイドの見直しや更新を行う権利を留保しています。

このガイドは、Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents のライセンスを取得したユーザーを対象としています。

このガイドはライセンス要件について理解を深めることを目的としており、以下の章で構成されています。

- 1) 更新内容
- 2) チャンネルのライセンス (購入方法)
- 3) ライセンス方法 (製品ライセンス)
- 4) アドオン
- 5) 注意点、変更点

特定の組織にとって適切なテクノロジーソリューションや、個々の製品やシナリオにおけるライセンス要件を確認するには、マイクロソフト アカウント チームまたはマイクロソフト認定パートナーにご相談ください。このガイドは、使用権について規定するいかなる法的ドキュメントにも優先するものではなく、また、これらに置き換わるものでもありません。

このガイドの最新バージョンは[こちら](#)を参照してください。

更新内容

2021 年 5 月版における変更点については、[付録 C](#) の変更履歴を参照してください。

購入方法

ライセンス プログラム

ライセンス プログラムは、Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents を購入するためのチャンネルです。Power Apps、Power Automate、Microsoft Power Virtual Agents のライセンスは、マイクロソフト ボリューム ライセンス (VL)、クラウド ソリューション プロバイダー (CSP)、Web Direct (MOSP) の各プログラムを通じて提供されます。Power Apps および Power Automate は、以下のボリューム ライセンスで取得できます。

- Enterprise Agreement (EA)
- Enterprise Agreement Subscription (EAS)
- サーバーおよびクラウド加入契約 (SCE)
- Enrollment for Education Solutions (EES) (Campus and School Agreement に基づく)

その他のチャンネル

- Microsoft Online Government
- Microsoft Products and Services Agreement (MPSA)。MPSA の詳細については、[こちら](#)を参照してください。
- Microsoft Online Subscription Program (Web Direct/MOSP)

Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents のライセンス チャンネルと対象セグメントの詳細については、[製品条項とオンライン サービス条件](#)を参照してください。

ボリューム ライセンス プログラムに加入するには通常、契約または登録、あるいはその両方を行う必要があります。その後、最小購入要件を満たしたうえで、マイクロソフトのリセラーからライセンスを注文します。ボリューム ライセンスを通じた購入方法、販売パートナーの検索、その他の詳細については、[マイクロソフト ボリューム ライセンス Web サイト](#)を参照してください。

ライセンス方法

マルチプレキシング (多重化)

マルチプレキシングとは、ハードウェアまたはソフトウェアを使用して、接続をプールしたり、情報の経路を変更したり、Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents サービスに直接アクセスするユーザーの数を減らしたりすることを指します。マルチプレキシングを使用しても、Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents アプリへのアクセスに必要な SL の数を減らすことはできません。直接的でも間接的でも、Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents アプリにアクセスするすべてのユーザーまたはデバイスは適切なライセンスを取得する必要があります。

Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents のサービスにアクセスするためには、Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents のいずれかのライセンスが必要です。同様に、プールされたデバイスを使用して Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents アプリでデータの入力、クエリ、表示を行うユーザーには、Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents のライセンスが必要です。プールされた接続の場合、Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents 内ではアプリケーション間のデータ処理を行わないユーザー アカウントが使用されます。このアカウントは、システムへのアクセスが可能ですが、アクセスには Web サービス レイヤーだけを使用します。Microsoft Outlook などの個別のサービスのポータルまたは API を経由して Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents のサービスを間接的に利用する内部ユーザーも、アプリ内で Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents のユーザーとして設定されているかどうかにかかわらず、以下のように適切なライセンスを取得する必要があります。

- Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents のサービスを利用する内部ユーザーも、Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents の適切なライセンスを取得する必要があります。
- 自動プロセスを通じて Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents のサービスにアクセスするすべてのユーザーが、Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents ライセンスを取得する必要があります。

- Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents のアプリと、Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents のアプリを最終的に利用するユーザーやデバイスの間には存在するハードウェアやソフトウェアの層の数は、必要となる SL の数に影響しません。

マルチプレキシングの詳細については、「マイクロソフト ポリウム ライセンス簡易ガイド」の[マルチプレキシング \(多重化\) - クライアント アクセス ライセンス \(CAL\) の要件](#)を参照してください。なお、このドキュメントは、オンラインまたはオンプレミスの状況で使用できる一般的なマルチプレキシングのガイダンスを提供するものです。

外部ユーザーのライセンス要件

外部ユーザーには、Power Platform のサービスやデータにアクセスできるように適切にライセンスが割り当てられる必要があります。適用可能なライセンスには以下が含まれます。

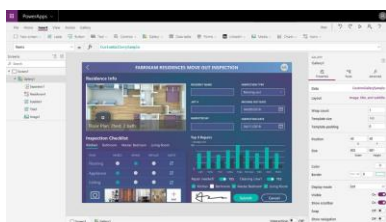
- 適切な Power Platform USL
- Office または Dynamics 365 USL からシードされたライセンス機能
- Power Portal ログインまたはページ ビュー キャパシティ
- 適切にライセンス付与された Power Automate per flow ワークフロー経由でのアクセス

ユーザーは、アクセスを直接行うか間接的に行うかにかかわらず、マルチプレキシングのガイドラインに沿って適切にライセンスが付与される必要があります。

外部のゲスト ユーザーのアクセスに関する詳細情報については、[こちら](#)を参照してください。

Power Apps サブスクリプション

Power Apps



サービスの概要

Power Apps は、ほとんどコードを書くことなく業務をデジタル化できるアプリケーション プラットフォームです。これを利用することで、企業が基幹業務アプリケーションを簡単に構築して、既存の Office 365 アプリや Dynamics 365 アプリをカスタマイズすることができます。詳細については、<https://powerapps.microsoft.com/ja-jp/> を参照してください。

ライセンスの概要

Power Apps の汎用的なフル機能は、スタンドアロン ライセンスで提供されます。また、Power Apps の限定的な機能は各種 Office 365 および Dynamics 365 ライセンスに含まれています。詳細については、このガイドの「Dynamics 365 ライセンスに含まれる Power Apps の使用权」「Office 365 ライセンスに含まれる Power Apps の使用权」のセクションを確認してください。

以下の表に、ライセンス体系の概要を示します。

	Per user, Per app	Per user
ライセンス方法	ユーザー単位/アプリ単位	ユーザー単位
説明	Power Apps のフル機能を使用して、個々のユーザーが特定のビジネス シナリオ向けのアプリケーション ¹ を実行できる	Power Apps のフル機能を使用して、ユーザーが無制限の数のアプリケーションを実行できる

¹ 各ライセンスにより、エンド ユーザーは 2 つのカスタム アプリを実行し、1 つのカスタム ポータルにアクセスできます。

Power Apps のスタンドアロン ライセンス

プラットフォームの汎用的なフル機能が必要な場合は、Power Apps のスタンドアロン ライセンスを取得してください。ライセンス方法は、「ユーザー単位」と「ユーザー単位/アプリ単位」の両方がサポートされています。どちらのスタンドアロン ライセンスでもフル機能が提供されます。詳細については、以下をご確認ください。

Power Apps per app プラン

Power Apps per app プランでは、組織のお客様が低価格でプラットフォームの利用を開始できます。Power Apps per app プランのお客様は通常、プラットフォームを全社的に導入する前に 1~2 種類の主要なユース ケース シナリオから開始します。Power Apps per app プランは、少数のアプリしか実行しないエンド ユーザーにライセンスを提供するためのライセンス オプションとしても魅力的です。

Power Apps per app プランでは、個々のユーザーが Power Apps のフル機能を使用して、2 つのカスタム アプリケーション (キャンバス/モデル駆動の一方または両方) を実行し、1 つのカスタム ポータルにアクセスできます。

ユーザー単位/アプリ単位のオファーの概要	
SKU の名称	Power Apps per app プラン
ライセンスの種類	ユーザー単位のライセンス
ライセンスの割り当て	製品内
ライセンスの併用可/不可	○

注:

- モデル駆動アプリに埋め込まれたキャンバス アプリは、2 つのアプリという制限にカウントされません。
- 単一のユーザーが複数の「per app」ライセンスを取得すると、per user ライセンスがなくても、さまざまなビジネス シナリオを対象とした複数のソリューションを使用できます。
- Power Apps per app** ライセンスのプールを購入したら、個々のライセンスを特定の環境や個々のユーザーに割り当てる必要があります (2 つの環境に同じアプリが存在する場合、両方の環境にアクセスするにはユーザーは 2 つの **per app SL** が必要になります)。
- 教育機関のお客様は、Power Apps per app プランを教職員および学生向け料金で購入できます。これらのライセンスはテナント レベルのキャパシティとして販売され、Active Directory のユーザーには割り当てられないため、お客様やパートナーが責任を持って、学生向け料金が学生のみにも適用されていることを確認する必要があります。つまり、ライセンスを学生向け料金で購入した場合、その製品の学生以外のユーザー (教職員) に対して、購入した教職員用ライセンスの数よりも多くのアプリ ライセンスを割り当てることはできません (教職員に学生用ライセンスを割り当てたことになるため)。

Power Apps per app ライセンスの権利の概要

プランと機能		Power Apps per app プラン
カスタム アプリ/ ポータルの実行	カスタム アプリの実行 (キャンバス/モデル駆動の両方)	アプリ x 2
	カスタム ポータルへのアクセス	カスタム ポータル x 1
データへの接続	標準コネクタ	●
	プレミアム コネクタ、カスタム コネクタ	●
	オンプレミス データ ゲートウェイ	●
データの保存と管理	Dataverse (旧称 Common Data Service) の利用	●
	カスタム テーブルの作成とアクセス (複雑なテーブルを含む)	●
	Dynamics 365 の制限付きテーブルへのアクセス ¹	読み取り専用
フローの実行	自動化/インスタント/スケジュール済みのフロー ²	アプリのコンテキスト内
	ビジネス プロセス フロー	
ライセンスあたりの キャパシティ	Dataverse のデータベース キャパシティ ³	50 MB
	Dataverse のファイル キャパシティ ³	400 MB
	1 日あたりの Power Platform 要求 ⁴	1,000
AI の組み込み	AI Builder キャパシティ アドオン	有償

¹ Dataverse 内のテーブルが制限付きになるのは、Dynamics 365 アプリケーションが特定の環境にインストールされている場合のみです。

² Power Apps スタンドアロン プランに含まれる Power Automate の使用権には、デスクトップ フロー機能は含まれません。デスクトップ フロー機能を使用するには、有入 RPA を含む Power Automate per user プランを別途購入する必要があります。

³ Dataverse のデータベースおよびファイル キャパシティの権利はテナント レベルでプールされます。

⁴ サービスの上限については、<http://aka.ms/platformlimits> を参照してください。「Power Apps および Power Automate キャパシティ アドオン」を購入すると、1 日あたりのサービスの上限を引き上げることができます。

Power Apps per user プラン

Power Apps per user プランでは、ライセンスを取得したユーザーが Power Apps のフル機能を使用して、無制限の数のカスタム アプリケーションを実行できます。

ユーザー単位のオファーの概要	
SKU の名称	Power Apps per user プラン
ライセンスの種類	ユーザー ライセンス

Power Apps per user ライセンスの権利の概要

プランと機能		Power Apps per user プラン
カスタム アプリ/ ポータルの実行	カスタム アプリの実行 (キャンバス/モデル駆動の両方)	無制限
	カスタム ポータルへのアクセス	無制限
データへの接続	標準コネクタ	●
	プレミアム コネクタ、カスタム コネクタ	●
	オンプレミス データ ゲートウェイ	●
データの保存と管理	Dataverse (旧称 Common Data Service) の利用	●
	カスタム テーブルの作成とアクセス (複雑なテーブルを含む)	●
	Dynamics 365 の制限付きテーブルへのアクセス ¹	読み取り専用
フローの実行	自動化/インスタント/スケジュール済みのフロー ²	アプリのコンテキスト内
	ビジネス プロセス フロー	
ライセンスあたりの キャパシティ	Dataverse のデータベース キャパシティ ³	250 MB
	Dataverse のファイル キャパシティ ³	2 GB
	1 日あたりの Power Platform 要求 ⁴	5,000
AI の組み込み	AI Builder キャパシティ アドオン	有償

¹ Dataverse 内のテーブルが制限付きになるのは、Dynamics 365 アプリケーションが特定の環境にインストールされている場合のみです。

² Power Apps スタンドアロン プランに含まれる Power Automate の使用権には、デスクトップ フロー機能は含まれません。デスクトップ フロー機能を使用するには、有人 RPA を含む Power Automate per user プランを別途購入する必要があります。

³ Dataverse のデータベースおよびファイル キャパシティの権利はテナント レベルでプールされます。

⁴ サービスの上限については、<http://aka.ms/platformlimits> を参照してください。「Power Apps および Power Automate キャパシティ アドオン」を購入すると、1 日あたりのサービスの上限を引き上げることができます。

Dynamics 365 ライセンスに含まれる Power Apps の使用権

ライセンスを取得した Dynamics 365 アプリケーションと同じ環境内には Power Apps の限定的な使用権が含まれており、ユーザーが Dynamics 365 アプリケーションをカスタマイズ、拡張することができます。Dynamics 365 ライセンスに含まれる Power Apps の機能の使用は、ライセンスを取得した Dynamics 365 アプリケーションのコンテキスト内に制限されています。さらに、具体的な使用権は Dynamics 365 のライセンスの種類によって異なります。

Dynamics 365 アプリケーションに含まれる Power Apps の使用権

機能		Dynamics 365 アプリ 1	Dynamics 365 Enterprise アプリ 2
カスタム アプリの実行 ³	スタンドアロン アプリの実行 (キャンパス/モデル駆動)	-	ライセンスを取得した Dynamics 365 アプリと同じ 環境内 ⁴
データへの接続	標準コネクタ	●	●
	プレミアム コネクタ、カスタム コネクタ	●	●
	オンプレミス データ ゲートウェイ	●	●
データの保存と管理	Dataverse の利用 (旧称 Common Data Service)	●	●
	カスタム テーブルの作成とアクセス	アプリにつき最大 15 個	●
	Dynamics 365 の制限付きテーブルの使用権	作成/読み取り/更新/削除	作成/読み取り/更新/削除
フローの実行	自動化/インスタント/スケジュール済みのフロー	アプリのコンテキスト内	アプリのコンテキスト内
	ビジネス プロセス フロー		
AI の組み込み	AI Builder キャパシティ アドオン	有償	有償
Power Apps ポータルの 使用権	スタンドアロンの Power Apps ポータルの使用権	-	ライセンスを取得した Dynamics 365 アプリと同じ 環境内

¹ Dynamics 365 Sales Professional、Dynamics 365 Customer Service Professional、Dynamics 365 Team Members、Dynamics 365 Operations – Activity、Dynamics 365 Human Resources Self Service、Dynamics 365 Business Central Team Members

² Dynamics 365 Sales Enterprise、Dynamics 365 Customer Service Enterprise、Dynamics 365 Field Service、Dynamics 365 Finance、Dynamics 365 Supply Chain Management、Dynamics 365 Project Operations、Dynamics 365 Commerce、Dynamics 365 Human Resources、Dynamics 365 Business Central

³ Power Apps および Power Automate の使用量は、Dynamics 365 ライセンスの Power Platform 要求にカウントされます。サービスの上限については、<http://aka.ms/platformlimits> を参照してください。「Power Apps および Power Automate キャパシティ アドオン」を購入すると、1 日あたりのサービスの上限を引き上げることができます。

⁴ Finance、Supply Chain Management、Commerce の場合、Dynamics 365 環境は二重書き込み機能が構成される環境として定義されます。Business Central の場合、Dynamics 365 環境は Business Central と統合する 1 つ以上の Power Apps を含む環境として定義されます。

Office 365 ライセンスに含まれる Power Apps の使用権

一部の Office 365 ライセンスには Power Apps の限定的な使用権が含まれており、ユーザーが Office 365 をカスタマイズ、拡張して生産性シナリオを実現したり、Microsoft Teams 向けの包括的なローコード拡張プラットフォームを利用したりすることができます。Power Apps と Dataverse for Teams の使用権が含まれる Office 365 ライセンスの一覧については、「[付録 B](#)」を参照してください。

Office 365 ライセンスに含まれる Power Apps の使用権

機能		Office 365
カスタム アプリ/ ポータルの実行	カスタム アプリの実行 (キャンパス アプリ)	無制限
	カスタム アプリの実行 (モデル駆動アプリ)	-
	カスタム ポータルへのアクセス	-
データへの接続	標準コネクタ	●
	プレミアム コネクタ、カスタム コネクタ ¹	-
	オンプレミス データ ゲートウェイ	-
データの保存と管理	Dataverse for Teams の利用 (Teams 内のアプリでのみ利用可) ^{2, 3, 4}	一部の O365 ライセンス
	Dataverse (旧称 Common Data Service) の利用	-
	カスタム テーブルの作成とアクセス (複雑なテーブルを含む)	-
フローの実行	Power Automate の使用権 (Office 365 に含まれる Power Automate のセクションを参照)	●
ライセンスあたりの キャパシティ	Dataverse のデータベース キャパシティ ⁵	-
	Dataverse のファイル キャパシティ ⁵	-
	1 日あたりの Power Platform 要求 ⁶	2,000

¹お客様は自身の Azure バックエンド サービスを API として公開し、それらの API を Azure API Management を通じてカスタム コネクタとして Power Platform にエクスポートできます。Dataverse for Teams を含む適格な Office 365 ライセンスをお持ちのお客様は、これらのコネクタを Teams で実行されるカスタムのアプリケーション、フロー、チャットボットに使用したり、オンプレミスやサードパーティ クラウドではなく、Azure バックエンド サービスに接続したりすることができます。詳細については、[Azure API Management のページ](#)と[こちらの技術ドキュメント](#)を確認してください。

² Dataverse for Teams は、データ ストレージと、Teams 内でのアプリ開発に対応したワンクリック ソリューションを提供する柔軟性に優れた組み込みのデータストアです。Dataverse for Teams の使用権を含む Office 365 ライセンスの完全な一覧については、「[付録 B](#)」を参照してください。

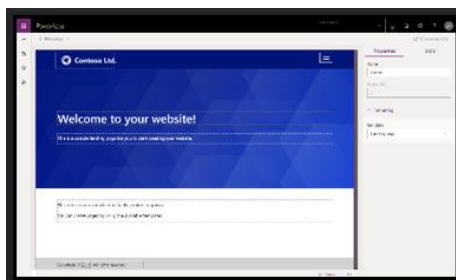
³ Dataverse for Teams の各環境は、Teams の 1 つのチームに一意的に (1 対 1 の) マッピングを行い、標準的な使い方ですべて最大 1,000,000 レコードを保存することができます。Dataverse for Teams のキャパシティとサービスの上限の詳細については、[こちらの公開リンク](#)から確認してください。

⁴ Dataverse for Teams は、スタンドアロンの Power Platform のライセンスによって権利が追加されることはありませんが、プレミアム機能については対応するライセンスによってサポートされます。例: 特定の Dataverse for Teams 環境において、アプリのコンテキスト内でプレミアム コネクタにアクセスするには、アプリにアクセスするすべてのユーザーが、シナリオやニーズに応じて Power Apps の per app プランまたは per user プランのいずれかのライセンスを取得している必要があります。

⁵ Dataverse のデータベースおよびファイル キャパシティの権利はテナント レベルでプールされます。

⁶ 使用量のキャパシティは Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents の間で共通です。「Power Apps および Power Automate キャパシティ アドオン」を購入すると、1 日あたりのサービスの上限を引き上げることができます。詳細については、<http://aka.ms/platformlimits> を参照してください。

Power Apps ポータル



サービスの概要

Power Apps ポータルでは、Dataverse (旧称 Common Data Service) のデータを基盤とするスタンドアロンの外部向けポータルを作成できます。Power Apps ポータルの詳細については、<https://powerapps.microsoft.com/ja-jp/powerapps-portals/> を参照してください。

ライセンスの概要

Power Apps ポータル インスタンスのプロビジョニング

Power Apps ポータル インスタンスは、お客様がオンデマンドでプロビジョニングできます。ポータル インスタンスをプロビジョニングすると、使用可能な (未使用の) Dataverse のデータベース キャパシティから 1 GB が消費されます。そのため、追加のポータル インスタンスのプロビジョニングの上限は、使用可能な Dataverse のデータベース キャパシティのみによって決まります。

Power Apps ポータル インスタンスの使用

Power Apps ポータル インスタンスにアクセスするエンド ユーザーごとに、適切なライセンスを取得する必要があります。以下の表に、エンド ユーザーの種類の概要を示します。

エンド ユーザーの種類		説明	ユース ケースの例
認証済み	外部ユーザー ¹	Azure AD B2C、LinkedIn、Okta などの認証メカニズムを利用して、パーソナライズされたデータへの安全なアクセスを取得している	<ul style="list-style-type: none"> B2B - パートナー管理 (ディーラー、サプライヤー、フランチャイズなど) B2C - アカウント管理など
	内部ユーザー	Power Apps または Dynamics 365 のログイン資格情報が関連付けられている Azure AD を利用して、パーソナライズされたデータへの安全なアクセスを取得している	<ul style="list-style-type: none"> 従業員セルフサービス
未認証	-	ポータルで公開されている Web ページにアクセス可能	ナレッジ管理サイト

¹「外部ユーザー」は、自社または関連会社の従業員、契約社員、エージェント以外のユーザーを指します。

ライセンス方法は、エンド ユーザーの種類によって異なります。

エンド ユーザーの種類		ライセンス モデル	説明
認証済み	外部ユーザー ¹	Per login	1 回のログインにより、認証済みのユーザーは単一のポータルに最大 24 時間 アクセスできます。24 時間中に複数回ログインした場合は、請求対象のログイン 1 回 分とカウントされます。ログインは、単一の Power Apps ポータルへのワンデー パスのようなものと考えられます。
	内部ユーザー	<ul style="list-style-type: none"> Power Apps per app、 Power Apps per user、 一部の D365 ライセンス 	カスタム ポータルの使用権は、カスタム アプリの使用権に従います。
未認証	-	<ul style="list-style-type: none"> Per page view 	

Per login モデル

Power Apps ポータル インスタンスで認証済みの外部ユーザーのシナリオを実装する場合は、使用量の予測に基づいて、適切なログイン キャパシティを購入してください。認証済みの外部ユーザーのシナリオの対象となるすべてのポータル インスタンスで必要なログイン キャパシティを購入してください。

SKU の名称	キャパシティの単位	最小購入数	1 か月あたりの分量	チャネル
Power Apps ポータル ログイン キャパシティ アドオン	100 回/月	1	100 回	すべて
Power Apps ポータル ログイン キャパシティ アドオン tier-2		10	1,000 回	すべて
Power Apps ポータル ログイン キャパシティ アドオン tier-3		50	5,000 回	CSP のみ

各アドオンによって月 100 回のログインが提供されます。分量のレベルと対応する SKU は、最小購入要件に基づいて異なります。各レベルについて、最小購入要件を満たした場合に、追加のアドオンを 1 つ単位で購入できます。

たとえば、月に 5,500 回のログインを必要とする場合は、「Power Apps ポータル ログイン キャパシティ アドオン tier-3」を 55 個購入します。

キャパシティの適用

Power Apps ポータル ログイン キャパシティ アドオン SKU の場合、購入したキャパシティは 1 か月ごとに適用されます。未使用のログインを翌月に繰り越すことはできません。そのため、毎月のピーク使用量の予測に合わせて適切なキャパシティを購入してください。

超過使用分の処理

正当な理由があって時おり超過する分には構いませんが、購入したキャパシティを超過する場合は、コンプライアンスを維持するために、標準的なマイクロソフトの使用条件に従って購入数量を調整してください。

購入したキャパシティの割り当て

Power Apps ポータル インスタンスごとの最小割り当てキャパシティは月 100 回です。月 100 回の最小キャパシティを割り当てたら、追加のログインを 1 回単位で追加できます。

Per page view モデル

Power Apps ポータル インスタンスで匿名アクセスのシナリオを実装する場合は、使用量の予測に基づいて、適切なページ ビュー キャパシティを購入してください。匿名アクセスのシナリオの対象となるすべてのポータル インスタンスで必要なページ ビュー キャパシティを購入してください。

SKU の名称	キャパシティの単位	チャネル
Power Apps ポータル ページ ビュー キャパシティ アドオン	100,000 回/月	すべて

各アドオンによって月 100,000 回のページ ビューが提供されます。たとえば、月に 570,000 回のページ ビューを必要とする場合は、「Power Apps ポータル ページ ビュー キャパシティ アドオン」を 6 つ購入します。

キャパシティの適用

Power Apps ポータル ページ ビュー キャパシティ アドオン SKU の場合、購入したキャパシティは 1 か月ごとに適用されます。未使用のページ ビューを翌月に繰り越すことはできません。そのため、毎月のピーク使用量の予測に合わせて適切なキャパシティを購入してください。

超過使用分の処理

正当な理由があって時おり超過する分には構いませんが、購入したキャパシティを超過する場合は、コンプライアンスを維持するために、標準的なマイクロソフトの使用条件に従って購入数量を調整してください。

購入したキャパシティの割り当て

Power Apps ポータル インスタンスごとの最小割り当てキャパシティは月 50,000 回です。最小キャパシティを割り当てたら、追加のページ ビューを 1 回単位で追加できます。

Power Apps ポータル - 内部ユーザーの使用権

内部ユーザー (Power Apps または Dynamics 365 ライセンスを取得したユーザー) の場合、実質的にはカスタム ポータルである Power Apps ポータルの使用権は、Power Apps のカスタム アプリの使用権に従います。

ライセンス	カスタムの Power Apps ポータルの使用権
Dynamics 365 Team Members	なし
Dynamics 365 Operations - Activity	なし
Dynamics 365 Professional ライセンス ¹	なし
Dynamics 365 Enterprise ライセンス ²	<ul style="list-style-type: none">ライセンスを取得した Dynamics 365 アプリのコンテキスト内の Power Apps ポータルライセンスを取得した Dynamics 365 アプリと同じ環境内の Power Apps ポータル
Power Apps per app	Power Apps ポータル x 1
Power Apps per user	無制限の Power Apps ポータル
Office 365	なし

¹ Dynamics 365 Sales Professional、Dynamics 365 Customer Service Professional

² Dynamics 365 Sales Enterprise、Dynamics 365 Customer Service Enterprise、Dynamics 365 Field Service、Dynamics 365 Finance、Dynamics 365 Supply Chain Management、Dynamics 365 Project Operations、Dynamics 365 Commerce、Dynamics 365 Human Resources、Dynamics 365 Business Central

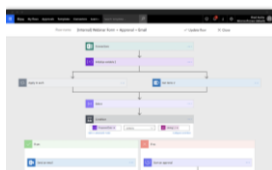
Power Apps ポータルの Power Platform 要求

1 回のログインごとに、1 日あたりの Power Platform 要求の権利がユーザーあたり 24 時間中 200 回に制限されます。匿名のページ ビューは、バックエンド システムの機能を操作することがほとんどないため、ページ ビューにつき最大 3 回の Power Platform 要求が許可されます。

これらの Power Platform 要求は、ポータルに割り当てられたログイン/ページ ビューの回数に応じて、ポータル レベルでプールされます。

Power Automate サブスクリプション

Power Automate



サービスの概要

Power Automate を使用すると、企業はワークフローやビジネス プロセスを自動化し、業務効率を向上できます。詳細については、<https://flow.microsoft.com> を参照してください。

ライセンスの概要

Power Automate の汎用的な機能は、スタンドアロン ライセンスで提供されます。Power Automate の限定的な機能は、Power Apps、Office 365、Dynamics 365 のライセンスにも含まれます。詳細については、このガイドの「Dynamics 365 に含まれる Power Automate の使用権」「Office 365 ライセンスに含まれる Power Automate の使用権」のセクションを確認してください。

以下の表に、ライセンス体系の概要を示します。

Power Automate	Per user	Per user (有人 RPA を含む)	Per flow
ライセンス方法	ユーザー単位	ユーザー単位	フロー単位 (最小購入要件: 5 フロー)
説明	個々のユーザーが独自のニーズに基づいて、 無制限の数のフロー を作成できる	個々のユーザーが無制限の数のフローを作成し、 ロボティック プロセスオートメーション (RPA) と AI を通じてレガシ アプリケーションを自動化 できる	フローと予約済みキャパシティを実装し、組織全体で 無制限の数のユーザー が利用できるようにする

Power Automate のスタンドアロン ライセンス

ワークフロー/ビジネス プロセス自動化やロボティック プロセス オートメーション (RPA) の汎用的な機能のすべてが必要な場合は、Power Automate のスタンドアロン ライセンスの購入を検討してください。ライセンス方法は、「ユーザー単位」と「フロー単位」の両方がサポートされています。すべてのスタンドアロン ライセンスには、Power Automate のフル機能が含まれています (ただし、有人 RPA を含む Power Automate per user プランのみに含まれる RPA 機能を除く)。

Power Automate per user プラン

Power Automate per user プランでは、個々のユーザーが独自のニーズに基づいて、無制限の数のワークフローとビジネス プロセスを作成、実行できます。Power Automate per user プランは、自動化という文化の全社的な導入をサポートすることを目的としています。組織全体で Power Automate per user プランのライセンスを取得すれば、管理者が組織内でアクティブ化/使用されているフローの数を追跡する負担を最小限に抑えることができます。

ユーザー単位のオファーの詳細	
SKU の名称	Power Automate per user プラン
フローの有効化	無制限
使用量の上限	1 日あたり 5,000 回の Power Platform 要求

「Power Apps および Power Automate キャパシティ アドオン」を購入すると、1 日あたりのサービスの上限を引き上げることができます。

Power Automate per flow プラン

Power Automate per flow プランでは、フロー単位でライセンスが提供され、お客様は重要なビジネス プロセスとキャパシティを実装して、チーム、部門、組織全体が利用できるようになります。そのため、ライセンスを取得したフローをトリガーするエンド ユーザーごとに個別にライセンスを取得する必要はありません。

Power Automate per flow プランは、通常は部門内の 1 人のパワー ユーザーがフローをセットアップし、そのフローをグループ内で共有するといったシナリオに最適です。このプランにより、意図的か意図的でないかを問わず、ライセンスを取得したフローの実行をトリガーした各エンド ユーザーにライセンスを取得する必要性が軽減されます。

フロー単位のオファーの詳細	
SKU の名称	Power Automate per flow プラン
最小購入要件	5 つ
使用量の上限	ライセンスを取得したフローにつき 1 日あたり 15,000 回の Power Platform 要求

注:

- すべての種類の**有効化された最上位のフロー**について、ライセンスを取得する必要があります (スケジュール済みのフロー、自動化されたフロー、インスタント フロー、ビジネス プロセス フロー)。「子」フローのみとして使用されるフロー (別のフローによってトリガーされるフロー) には、追加のライセンスを取得する必要はありません。
- 最上位のフローのライセンスを増やしたい場合は、「Power Automate per flow プラン」を追加購入してください。
- 現在ライセンスを取得しているフローの使用量のキャパシティのみを増やしたい場合は、「Power Apps および Power Automate キャパシティ アドオン」を購入できます。

プランと機能		Power Automate per user プラン	有人 RPA を含む Power Automate per user プラン	Power Automate per flow プラン
基本事項	最小購入要件	なし	なし	5 つ
	ユーザー単位のライセンス	●	●	-
フローの実行 ¹	クラウド フロー (自動化/インスタント/スケジュール済みのフロー)	●	●	●
	ビジネス プロセス フロー	●	●	●
	有人デスクトップ フロー	-	●	-
	無人デスクトップ フロー ²	-	有償	有償
	WinAutomation クライアント機能	-	●	-
共有と共同作業	ライセンスに含まれるフローが対象	●	●	-
データへの接続	標準コネクタ	●	●	●
	プレミアム コネクタ、カスタム コネクタ	●	● ³	●
	オンプレミス データ ゲートウェイ	●	●	●
データの保存と管理	Dataverse (旧称 Common Data Service) の 使用権	●	●	●
エンタープライズ レベルの 管理とセキュリティ	Power Platform 管理センターでの一元管理	●	●	●
ライセンスあたりの キャパシティ	Dataverse のデータベース キャパシティ ⁴	250 MB	250 MB	50 MB
	Dataverse のファイル キャパシティ ⁴	2 GB	2 GB	200 MB
	1 日あたりの Power Platform 要求 ⁵	5,000	5,000	15,000
AI の組み込み	AI Builder サービス クレジット ⁶	有償	5,000	有償

¹ 各フローの種類の定義については[技術ドキュメント](#)を確認してください。

² 無人 RPA シナリオでは Power Automate 無人 RPA アドオンが必要です。これは別途購入できます。単一プロセスの同時インスタンスには、インスタンスごとに追加の無人ボットが必要です。複数の無人 RPA アドオンを対象の基本ライセンスに適用できます。

³ デスクトップ フロー コネクタが付属しています (Windows ライセンスには付属しません)。

⁴ Dataverse の追加のデータベース/ファイル/ログ キャパシティは 1 GB 単位で購入できます。Dataverse のデータベースおよびファイル キャパシティはテナント全体でプールされます。

⁵ 使用量の上限の詳細については、<http://aka.ms/platformlimits> を参照してください。「Power Apps および Power Automate キャパシティ アドオン」を購入すると、1 日あたりのサービスの上限を引き上げることができます。

⁶ 追加の AI Builder のキャパシティは 100 万件のサービス クレジットごとに 500 ドル/月で購入できます。AI Builder サービス クレジットのキャパシティはテナントレベルでプールされます。

注: ライセンスの種類に関係なく、スケジュール済みのフローは 1 分おきにトリガーするように構成できます。コネクタでサポートされる以外に、フロー実行の頻度に制限はありません。

有人 RPA を含む Power Automate per user プラン

有人 RPA を含む Power Automate per user プランは、レガシ アプリとモダン アプリのいずれにも対応します。個々のユーザーが API に基づく自動化のために無制限の数のフローを作成し、ロボティック プロセス オートメーション (RPA) と AI を通じたデスクトップ フローによるレガシ アプリの自動化を実現できます。このプランは Power Automate per user プランをベースに構築されており、ユーザーは有人 RPA ボットをワークステーションで実行できます。さらに、有人 RPA にはフォーム処理、物体検出、予測、テキスト分類、テキスト認識といったシナリオをサポートする AI Builder 機能へのアクセスが含まれます。

無人のシナリオで RPA ボットを実行するには、Power Automate 無人 RPA アドオンの追加が必要であることにご注意ください。詳細は[こちら](#)を確認してください。

有人 RPA を含む Per user オファーの詳細	
SKU の名称	有人 RPA を含む Power Automate per user プラン
フローの実行 ¹ (自動化/インスタント/スケジュール済み/ビジネス プロセスのフロー)	無制限
デスクトップ フロー (有人 RPA ボットを含む ²)	1
AI Builder サービス クレジットが含まれる	5,000/月
使用量の上限	1 日あたり 5,000 回の Power Platform 要求

¹ 各フローの種類の定義については[技術ドキュメント](#)を確認してください。

² RPA ボットを実行するために複数のデスクトップ フローを作成/記録できます。ただし、ボットは一度に 1 つの個別のデスクトップ フロー (プロセス) しか実行できません。複数のプロセスを順に実行するには、シリアル化する必要があります。

注:

- このオファーには、デスクトップ フローの作成、ボットのオーケストレーションと管理が含まれます。
- このオファーには、WinAutomation クライアント機能が含まれます。
- このボットは同じワークステーションでユーザーと同時に動作する必要があります。このボットは複数のプロセス (デスクトップ フロー) を実行できますが、連続して実行するためには各プロセスをシリアル化する必要があります。
- 追加の AI Builder のキャパシティは、100 万件のサービス クレジットにつき 500 ドル/月で購入でき、AI Builder サービス クレジットのキャパシティはテナント レベルでプールされます。
- 「Power Apps および Power Automate キャパシティ アドオン」を購入すると、1 日あたりのサービスの上限を引き上げることができます。

Power Automate 無人 RPA アドオン

Power Automate 無人 RPA アドオンは、ボットを自律的に、つまりユーザーから独立して実行できるようにして、デスクトップ ベースの自動化を拡張します。無人ボットは、ローカル、リモート デスクトップといった仮想化環境で展開できます。基本ライセンスである有人 RPA を含む Power Automate per user プランまたは Power Automate per flow プランを保有している場合に、無人 RPA アドオンを購入できます。

注: Power Automate 無人 RPA アドオンは、ボットを実行するライセンスです。単一のプロセスで複数のインスタンスを並行して実行するには、インスタンスごとに追加の無人ボットが必要になります。複数の無人 RPA アドオンは、対象の基本ライセンスに対して適用することができます。

Power Automate 無人 RPA アドオン	
SKU の名称	Power Automate 無人 RPA アドオン
対象の基本ライセンス	有人 RPA を含む Power Automate per user プランまたは Power Automate per flow プラン
AI Builder サービス クレジットが含まれる	5,000/月
追加のライセンスが必要な場合がある	無人ボットでソフトウェアを自動化するには、ソフトウェアの条件に従って追加のライセンスが必要となる場合があります。たとえば、Office 365 を組み込む無人 RPA シナリオでは、Microsoft 365 の無人ライセンスが必要です。詳細については、 オンライン サービス条件 を確認してください。

注:

- 1 つの無人 RPA アドオン ライセンスには 1 つの無人 RPA ボットの権利だけでなく、デスクトップ フローの作成、ボットのオーケストレーションと管理に紐付けられるすべての必要な機能が含まれます。
- VM で無人 RPA ボットを実行するには、必要条件を満たしたコンピューティング リソースを別途購入する必要があります。
- 追加の AI Builder のキャパシティは、100 万件のサービス クレジットにつき 500 ドル/月で購入でき、AI Builder サービス クレジットのキャパシティはテナント レベルでプールされます。
- 無人ボットがアクセスするサービスやアプリケーションを利用するには、別途ライセンスの取得が必要です。たとえば、ボツ

トが Windows や Office にアクセスしている場合、Power Automate 無人 RPA アドオンに加えて、Microsoft 365 無人ライセンスも購入する必要があります。

Power Apps ライセンスに含まれる Power Automate の使用権

Power Apps ライセンス (「Power Apps per app プラン」と「Power Apps per user プラン」の両方) には Power Automate の使用権が含まれており、Power Apps アプリケーションに関連付けられたワークフローを自動化するために使用できます。

Power Apps 内での Power Automate の使用は、Power Apps アプリケーションのコンテキスト内に制限されています。つまり、トリガーとアクションの両方について、Power Apps アプリケーションに含まれるフローは以下に接続できます。

- Power Apps アプリケーションの使用権に含まれるデータ ソース
- Power Apps アプリケーション本体 (組み込みのトリガー/アクションを使用)

フローが分離されて Power Apps アプリケーションとは関係がない場合は、Power Automate のスタンドアロン ライセンスを購入する必要があります。

Power Apps アプリケーションのコンテキスト内の Power Automate の使用例:

Power Apps のスタンドアロン ライセンスを取得しているユーザーが、データ ソースとして SQL DB を使用し、以下に該当するフローを含むアプリを実行する場合。

- SQL DB の読み取りまたは書き込みを行う
- 組み込みの Power Apps トリガー/アクションを使用する (アプリへのプッシュ通知の送信など)

Power Apps アプリケーションのコンテキスト外の Power Automate の使用例:

上記の例と同じユーザーが、Oracle データベースを更新するフローを使用したいと考え、そのフローが以下に該当する場合。

- Power Apps アプリとは関係がない
- Power Apps アプリ (またはそのデータ ソース) をどのような形でも操作しない

この場合は、Power Automate のスタンドアロン ライセンスが必要になります。

プランと機能		Power Apps ライセンスに含まれる Power Automate の使用権
フローの実行 ¹	自動化/インスタント/スケジュール済みのフロー	●
	ビジネス プロセス フロー	●
データへの接続	標準コネクタ	●
	プレミアム コネクタ 、 カスタム コネクタ	●
	オンプレミス データ ゲートウェイ	●
データの保存と管理	Dataverse (旧称 Common Data Service) の使用権	●

¹ Power Automate の使用は、フローを埋め込む Power Apps アプリケーションのコンテキスト内である必要があります。

² Power Automate の使用量は、Power Apps ライセンスに関連付けられたサービスの上限にカウントされます。使用量の上限の詳細については、<http://aka.ms/platformlimits> を参照してください。「Power Apps および Power Automate キャパシティ アドオン」を購入すると、1 日あたりのサービスの上限を引き上げることができます。

Dynamics 365 ライセンスに含まれる Power Automate の使用権

Dynamics 365 ライセンスには Power Automate の使用権が含まれており、Dynamics 365 アプリケーションをカスタマイズおよび拡張するために使用できます。

Dynamics 365 内での Power Automate の使用は、フローを埋め込む Dynamics 365 アプリケーションのコンテキスト内に制限されています。トリガーとアクションの両方について、Dynamics 365 アプリケーションに含まれるフローは以下に接続できます。

- Dynamics 365 アプリケーションの使用権に含まれるデータ ソース
- Dynamics 365 アプリケーション本体 (組み込みのトリガー/アクションを使用)

埋め込んだフローが Dynamics 365 アプリケーションのコンテキスト外の場合は、Power Automate のスタンドアロン ライセンスを購入する必要があります。

Dynamics 365 ライセンスに含まれる Power Automate の使用権の概要

プランと機能		Dynamics 365 アプリ ³	Dynamics 365 Enterprise アプリ ⁴
フローの実行 ^{1,2}	自動化/インスタント/スケジュール済みのフロー	アプリのコンテキスト内	アプリのコンテキスト内
	ビジネス プロセス フロー		
データへの接続	標準コネクタ	●	●
	プレミアム コネクタ 、 カスタム コネクタ	●	●
	オンプレミス データ ゲートウェイ	●	●
データの保存と管理	Dataverse (旧称 Common Data Service) の使用権	●	●
	カスタム テーブルの作成とアクセス	アプリにつき最大 15 個	●
	Dynamics 365 の制限付きテーブルの使用権	作成/読み取り/更新/削除	作成/読み取り/更新/削除

¹ Power Automate の使用は、フローを埋め込む Dynamics 365 アプリケーションのコンテキスト内である必要があります。

² Power Automate の使用量は、フローを埋め込む Dynamics 365 ライセンスに関連付けられたサービスの上限にカウントされます。使用量の上限の詳細については、<http://aka.ms/platformlimits> を参照してください。「Power Apps および Power Automate キャパシティ アドオン」を購入すると、1 日あたりのサービスの上限を引き上げることができます。

³ Dynamics 365 Sales Professional、Dynamics 365 Customer Service Professional、Dynamics 365 Team Members、Dynamics 365 Operations – Activity、Dynamics 365 Human Resources Self Service、Dynamics 365 Business Central Team Members

⁴ Dynamics 365 Sales Enterprise、Dynamics 365 Customer Service Enterprise、Dynamics 365 Field Service、Dynamics 365 Finance、Dynamics 365 Supply Chain Management、Dynamics 365 Project Operations、Dynamics 365 Commerce、Dynamics 365 Human Resources、Dynamics 365 Business Central

Office 365 ライセンスに含まれる Power Automate の使用権

一部の Office 365 ライセンスには Power Automate の限定的な使用権が含まれており、ユーザーが Office 365 をカスタマイズ、拡張して生産性シナリオを実現したり、Microsoft Teams 向けの包括的なローコード拡張プラットフォームを利用したりすることができます。Power Automate と Dataverse for Teams の使用権が含まれる Office 365 ライセンスの一覧については、「[付録 B](#)」を参照してください。

Office 365 内での Power Automate の使用は、フローを埋め込む Office 365 アプリケーションのコンテキスト内に制限されています。トリガーとアクションの両方について、Office 365 アプリケーションに含まれるフローは以下に接続できます。

- Office 365 アプリケーションの使用権に含まれるデータ ソース
- Office 365 アプリケーション本体 (組み込みのトリガー/アクションを使用)

埋め込んだフローが Office 365 アプリケーションのコンテキスト外の場合や、プレミアムのオンプレミスまたはカスタム データ ソースに接続する必要がある場合は、Power Automate のスタンドアロン ライセンスを購入する必要があります。

Office 365 ライセンスに含まれる Power Automate の使用権の概要

プランと機能		Office 365 ライセンスに含まれる Power Automate の使用権
フローの実行	自動化/インスタント/スケジュール済みのフロー	●
	ビジネス プロセス フロー	-
データへの接続	標準コネクタ	●
	プレミアム コネクタ 、 カスタム コネクタ ¹	-
	オンプレミス データ ゲートウェイ	-
データの保存と管理	Dataverse for Teams の利用 (Teams 内のフローでのみ利用可) ^{2, 3, 4}	一部の Office 365 ライセンス
	Dataverse (旧称 Common Data Service) の使用権	-
ライセンスあたりのキャパシティ	1 日あたりの Power Platform 要求 ⁵	2,000

¹お客様は自身の Azure バックエンド サービスを API として公開し、それらの API を Azure API Management を通じてカスタム コネクタとして Power Platform にエクスポートできます。Dataverse for Teams を含む適格な Office 365 ライセンスをお持ちのお客様は、これらのコネクタを Teams で実行されるカスタムのアプリケーション、フロー、チャットボットに使用したり、オンプレミスやサードパーティ クラウドではなく、Azure バックエンド サービスに接続したりすることができます。詳細については、[Azure API Management のページ](#)と[こちらの技術ドキュメント](#)を確認してください。

² Dataverse for Teams は、データ ストレージと、Teams 内でのアプリ開発に対応したワンクリック ソリューションを提供する柔軟性に優れた組み込みのデータストアです。Dataverse for Teams の使用権が含まれる Office 365 ライセンスの一覧については、「[付録 B](#)」を参照してください。

³ Dataverse for Teams の各環境は、Teams の 1 つのチームに一意的に (1 対 1 の) マッピングを行い、標準的な使い方で最大 1,000,000 行を保存することができます。Dataverse for Teams のキャパシティとサービスの上限の詳細については、[こちらの公開リンク](#)から確認してください。

⁴ Dataverse for Teams は、スタンドアロンの Power Platform のライセンスによって権利が追加されることはありませんが、プレミアム機能については対応するライセンスによってサポートされます。例: 特定の Dataverse for Teams 環境において、フローのコンテキスト内でプレミアム コネクタにアクセスするには、アプリにアクセスするすべてのユーザーが、シナリオやニーズに応じて Power Automate の per user プランまたは per flow プランのいずれかのライセンスを取得している必要があります。

⁵ 使用量のキャパシティは Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents の間で共通です。「Power Apps および Power Automate キャパシティ アドオン」を購入すると、1 日あたりのサービスの上限を引き上げることができます。詳細については、<http://aka.ms/platformlimits> を参照してください。

Windows ライセンスに含まれる Power Automate の使用権

一部の Windows ライセンスには Power Automate の限定的な使用権が含まれており、Power Automate Desktop の RPA 機能を利用した個人レベルのデスクトップ オートメーションの構築と実行が可能です。これにより、ワークフローを遅くする可能性のあるレガシ タスクを、デジタル ワーカーによってさらに自動化できるようになるため、Windows ユーザーは RPA によるローコードの自動化を利用して、冗長で時間のかかるタスクの自動化に着手できます。Power Automate の使用権が含まれる Windows ライセンスの一覧については、「[付録 B](#)」を参照してください。

Windows での Power Automate の使用は、すべてのアプリケーションと Web サイト (すべての Web ブラウザー) で可能です。エンタープライズレベルの自動化と管理者の権限は、Windows では利用できません。

Windows ライセンスに含まれる Power Automate 使用権の概要

プランと機能	Windows ライセンスに含まれる Power Automate の使用権	
フローの実行 ¹	クラウド フロー (自動化/インスタント/スケジュール済みのフロー)	-
	ビジネス プロセス フロー	-
	有人デスクトップ フロー	● Power Automate Desktop ² からのみ
	無人デスクトップ フロー	-
	WinAutomation クライアント機能	-
共有と共同作業	ライセンスに含まれるフローが対象	-
データへの接続	標準コネクタ	-
	プレミアム コネクタ、カスタム コネクタ	-
	オンプレミス データ ゲートウェイ	-
データの保存と管理	Dataverse (旧称 Common Data Service) の使用権	-
エンタープライズレベルの管理とセキュリティ	Power Platform 管理センターでの一元管理	基本的なレポート ³

¹ 各フローの種類の定義については[技術ドキュメント](#)を確認してください。

² Windows の Power Automate Desktop は、ローカル コンピューターにインストールして使用する無料のアプリケーションです。ログインして、デスクトップ フローを作成できます (非運用レベルであり、その Windows マシンのみでしか使用できません)。

³ Power Automate デスクトップ フローの使用状況に関する基本的なレポートは、Power Platform 管理センターで利用できます。

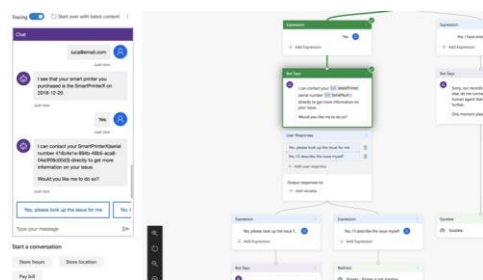
Power Automate オファーの使用権の概要:

プランと機能		Power Automate 有料オファー				含まれる Power Automate の使用権			
		per user プラン	有人 RPA を含む per user プラン	Per flow プラン (最低 5 つから)	無人 RPA アドオン	Office 365	Windows	Power Apps	Dynamics 365
フローの実行 ¹	クラウド フロー (自動化/インスタント/スケジュール済みのフロー)	●	●	●	-	●	-	● ²	● ²
	ビジネス プロセス フロー	●	●	●	-	-	-	● ²	● ²
	有人デスクトップ フロー	-	●	-	●	-	● ³	-	-
	無人デスクトップ フロー	-	-	-	●	-	-	-	-
	WinAutomation クライアント機能	-	●	-	-	-	-	-	-
共有と共同作業	ライセンスに含まれるフローが対象	●	●	-	-	●	-	●	●
データへの接続	標準コネクタ	●	●	●	-	●	-	● ²	● ²
	プレミアム コネクタ、カスタム コネクタ	●	● ⁴	● ⁴	-	-	-	● ²	● ²
	オンプレミス データ ゲートウェイ	●	●	●	-	-	-	● ²	● ²
データの保存と管理	Dataverse の使用権	●	●	●	-	-	-	● ²	● ²
	Dataverse for Teams (Teams 内のフローでのみ利用可)					一部の Office 365 ライセンス			
エンタープライズレベルの管理とセキュリティ	ライセンスに含まれるフローが対象	●	●	●	●	●	基本的なレポート	●	●
ライセンスあたりのキャパシティ	Dataverse のデータベース キャパシティ ⁵	250 MB	250 MB	50 MB	-	-	-	-	-
	Dataverse のファイル キャパシティ ⁵	2 GB	2 GB	200 MB	-	-	-	-	-
	1 日あたりの Power Platform 要求 ⁶	5,000	5,000	15,000	-	2,000	-	ライセンスによって異なる	10,000
AI の組み込み	AI Builder サービス クレジット ⁷	有償	5,000	有償	-	-	-	-	-

- 1 各フローの種類の詳細については[技術ドキュメント](#)を確認してください。
- 2 アプリのコンテキスト内。
- 3 Power Automate Desktop からのみ。Windows の Power Automate Desktop は、ローカル コンピューターにインストールして使用する無料のアプリケーションです。ログインして、デスクトップ フローを作成できます (非運用レベルであり、その Windows マシンのみでしか使用できません)。
- 4 デスクトップ フロー コネクタが付属しています (Windows ライセンスには付属しません)。
- 5 Dataverse の追加のデータベース/ファイル/ログ キャパシティは 1 GB 単位で購入できます。Dataverse のデータベースおよびファイル キャパシティはテナント全体でプールされます。
- 6 使用量の上限の詳細については、<http://aka.ms/platformlimits> を参照してください。「Power Apps および Power Automate キャパシティ アドオン」を購入すると、1 日あたりのサービスの上限を引き上げることができます。
- 7 追加の AI Builder のキャパシティは 100 万件のサービス クレジットごとに 500 ドル/月で購入できます。AI Builder サービス クレジットのキャパシティはテナントレベルでプールされます。

注: ライセンスの種類に関係なく、スケジュール済みのフローは 1 分おきにトリガーするように構成できます。コネクタでサポートされる以外に、フロー実行の頻度に制限はありません。

Power Virtual Agents サブスクリプション



サービスの概要

Power Virtual Agents では、ガイド付きでコード不要のグラフィカル インターフェイスを使用して、強力なボットを簡単に作成することができます。データ サイエンティストや開発者の力を借りる必要はありません。既成コネクタを使用してボットを数百のアプリやサービスに簡単に統合したり、Power Automate でカスタム ワークフローを作成したりすれば、ボットがお客様の代わりにアクションを実行できるようになります。ユーザーは、わかりやすいダッシュボードに表示される AI 駆動型およびデータ駆動型のインサイトを使用して、ボットのパフォーマンスを監視し、継続的に改善できます。詳細については、<https://powervirtualagents.microsoft.com/ja-jp/> を参照してください。

Power Virtual Agents を使用すると、ボットを公開して、複数のプラットフォームやチャンネルで顧客エンゲージメントを高めることができます。たとえば、Web サイト、モバイル アプリ、Microsoft Teams のようなメッセージング プラットフォームでリアルタイムにやり取りできます。チャンネルの詳細については、[こちら](#)の公開ドキュメントを参照してください。

ライセンスの概要

Power Virtual Agents アプリケーションでは、テナント単位でライセンスが提供されます。Power Virtual Agents の料金は「請求対象セッション」¹ 単位で請求されます (定義については以下を参照)。

テナント単位のオファーの概要	
SKU の名称	Power Virtual Agent
ライセンスの種類	テナント ライセンス

Power Virtual Agents でボットを作成するユーザー 1 人につき、1 つのユーザー ライセンス (Power Virtual Agent ユーザーライセンスと呼ばれる) を取得する必要があります。このライセンスは、管理者が管理ポータルから追加コストなしでユーザーに割り当てることができます。マイクロソフトは、Power Virtual Agents のオンボーディングを簡素化するために、単一取引の一部としてテナント ライセンス (必要な場合、キャパシティ アドオンも) とユーザー ライセンスを取得することを推奨します。

Power Virtual Agents の権利の概要

プランと機能		Power Virtual Agents の権利
インテリジェントなチャットボットの作成と保守	あらゆるチャネルでチャットボットを展開	●
チャット セッション	セッション回数/テナント/月 ^{1,2}	2,000 回
フローの作成	自動化/インスタント/スケジュール済み/ ビジネス プロセスのフロー	Power Virtual Agents ボットの コンテキスト内
データへの接続	標準コネクタ	●
	プレミアム コネクタ、カスタム コネクタ	●
	オンプレミス データ ゲートウェイ	●
データの保存と管理	Dataverse (旧称 Common Data Service) の 使用権	●
ライセンスあたりのキャパシティ	Dataverse - データベース キャパシティ	10 GB
	Dataverse - ファイル キャパシティ	20 GB
	Dataverse - ログ キャパシティ	2 GB
	1 日あたりの Power Platform 要求	30,000

¹ サービスの上限については、[こちらの公開ドキュメント](#)を参照してください。

² セッションがどのように定義されカウントされているかについては、下の請求対象セッションの定義の説明を確認してください。

請求対象セッションの定義:

請求対象セッションとは、ユーザーとボットのやり取りを指し、消費量の単位として使用されます。請求対象セッションは、ユーザーのトピックがトリガーされた時点で開始され、ユーザーの質問に回答した場合、あるいは会話が 60 分またはやり取りが 100 回*を超えた場合のいずれかの条件を満たした時点で終了となります。60 分を超過した、またはやり取りが 100 回を超えた場合でもエンド ユーザーのエクスペリエンスに影響はなく、レポートを作成する場合に別の請求対象セッションとしてカウントされるだけです。

* 1 回のやり取りとは、ユーザーとボット間の 1 つのやり取りを指します (ユーザーがボットにメッセージを送信してボットが返信するか、その逆の場合)。1 回の請求対象セッションは通常、複数のやり取りで構成されます。

詳細については、[こちらのページ](#)を参照してください。

キャパシティの適用

購入した Power Virtual Agents キャパシティは 1 か月ごとに適用され、未使用のセッションを翌月に繰り越すことはできません。

超過使用分の処理

正当な理由があって時おり超過する分には構いませんが、購入したキャパシティを超過する場合は、コンプライアンスを維持するために、標準的なマイクロソフトの使用条件に従って購入数量を調整してください。

お客様による Power Virtual Agents のキャパシティ管理をサポートするために、包括的な監視、レポート、アラート メカニズムが導入されます。使用量が購入したキャパシティを大幅に超える場合には、より厳格な技術的対応 (サービス拒否など) が行われます。

Office 365 ライセンスに含まれる Power Virtual Agents for Teams の使用権

一部の Office 365 ライセンスでは、Power Virtual Agents for Teams を使用して Teams 内で直接、Dataverse for Teams を使ったカスタム チャットボットを構築、展開することができます。Power Virtual Agents for Teams の使用権が含まれる Office 365 ライセンスの一覧については、「[付録 B](#)」を参照してください。

Office 365 ライセンスに含まれる Power Virtual Agents for Teams の使用権の概要

プランと機能		Office 365 ライセンスに含まれる Power Virtual Agents for Teams の使用権
インテリジェントなチャットボットの作成と保守	Teams でチャットボットを展開	●
	あらゆるチャネルでチャットボットを展開	-
チャット セッション	セッション回数/テナント/月 ¹	無制限 (Teams のみ)
フローの作成	自動化/インスタント/スケジュール済みのフロー	Power Virtual Agents ボットのコンテキスト内
	ビジネス プロセス フロー	-
データへの接続	標準コネクタ	●
	プレミアム コネクタ、カスタム コネクタ ²	-
	オンプレミス データ ゲートウェイ	-
データの保存と管理	Dataverse for Teams の利用 (Teams 内のチャットボットでのみ利用可) ^{3, 4, 5}	一部の Office 365 ライセンス
	Dataverse (旧称 Common Data Service) の 使用権	-
ライセンスあたりの キャパシティ	Dataverse - データベース キャパシティ	-
	Dataverse - ファイル キャパシティ	-
	Dataverse - ログ キャパシティ	-
	1 日あたりの Power Platform 要求 ⁶	2,000

¹ 含まれるのは Teams のセッションのみです。プレミアム機能を使用する有料のキャパシティは、あらゆるチャネル (Teams を含む) で利用でき、その利用には有料セッション キャパシティが消費されます。サービスの上限については、公開ドキュメント <https://docs.microsoft.com/ja-jp/power-virtual-agents/requirements-quotas> を参照してください。

² お客様は自身の Azure バックエンド サービスを API として公開し、それらの API を Azure API Management を通じてカスタム コネクタとして Power Platform にエクスポートできます。Dataverse for Teams を含む適切な Office 365 ライセンスをお持ちのお客様は、これらのコネクタを Teams で実行されるカスタムのアプリケーション、フロー、チャットボットに使用したり、オンプレミスやサードパーティクラウドではなく、Azure バックエンド サービスに接続したりすることができます。詳細については、[Azure API Management のページ](#)と[こちらの技術ドキュメント](#)を確認してください。

³ Dataverse for Teams は、データ ストレージと、Teams 内でのアプリ開発に対応したワンクリック ソリューションを提供する柔軟性に優れた組み込みのデータストアです。Dataverse for Teams の使用権が含まれる Office 365 ライセンスの一覧については、「[付録 B](#)」を参照してください。

⁴ Dataverse for Teams の各環境は、Teams の 1 つのチームに一意的に (1 対 1 の) マッピングを行い、標準的な使い方で最大 1,000,000 行を保存することができます。Dataverse for Teams のキャパシティとサービスの上限の詳細については、[こちらの公開リンク](#)から確認してください。

⁵ Dataverse for Teams は、スタンドアロンの Power Platform のライセンスによって権利が追加されることはありませんが、プレミアム機能については対応するライセンスによってサポートされます。例: 特定の Dataverse for Teams 環境において、チャットボットのコンテキスト内でプレミアム コネクタにアクセスするには、Power Virtual Agents の有料プランでテナントにライセンスを付与する必要があります。

⁶ 使用量のキャパシティは Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents の間で共通です。「Power Apps および Power Automate キャパシティ アドオン」を購入すると、1 日あたりのサービスの上限を引き上げることができます。詳細については、<http://aka.ms/platformlimits> を参照してください。

Dynamics 365 ライセンスに含まれる Power Virtual Agents の使用権

一部の Dynamics 365 ライセンスには Power Virtual Agents の限定的な使用権とセッション キャパシティが含まれており、Dynamics 365 アプリケーションを拡張するために使用できます。これらの権利に関する情報は [Dynamics 365 ライセンス ガイド](#)を参照してください。

サブスクリプション キャパシティ

Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents サブスクリプションの既定のキャパシティは、同じテナントおよびインフラストラクチャを使用し、1 つのテナント全体で計上されます。Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents ライセンスを購入したテナントには、既定のキャパシティが提供されます。さらに、Power Apps per user、Power Apps per app、Power Automate per user、Power Automate per flow プランのライセンスごとに、テナントに追加のキャパシティが提供されます。

Common Data Service は、**Microsoft Dataverse** にブランド変更されました。Dataverse for Teams のキャパシティとサービスの上限については、[こちらの](#)公開ドキュメントを参照してください。

Power Apps のテナントあたりの既定のキャパシティ	per user の既定	per app の既定	ユーザーごとに付加	アプリごとに付加
Dataverse のデータベース キャパシティ	10 GB	5 GB	250 MB	50 MB
Dataverse のファイル キャパシティ	20 GB	20 GB	2 GB	400 MB
Dataverse のログ キャパシティ	2 GB	2 GB	-	-

Power Automate のテナントあたりの既定のキャパシティ	per user の既定	per flow の既定	ユーザーごとに付加	フローごとに付加
Dataverse のデータベース キャパシティ	10 GB	5 GB	250 MB	50 MB
Dataverse のファイル キャパシティ	20 GB	2 GB	2 GB	200 MB
Dataverse のログ キャパシティ	2 GB	200 MB	-	-

なお、お客様は per flow プランで必要な数のフローを購入できます。フローごとにキャパシティの上限が引き上げられます。

Power Virtual Agents のテナントあたりの既定のキャパシティ	既定
Dataverse のデータベース キャパシティ	10 GB
Dataverse のファイル キャパシティ	20 GB
Dataverse のログ キャパシティ	2 GB

Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents、Dynamics 365 Sales/Customer Service/Field Service アプリケーションは、同じテナントとインフラストラクチャを使用します。Dataverse のキャパシティ (データベース、ファイル、ログ) はテナント全体でプールされ、関連するアプリケーション ワークロード間で共有されます。

Power Platform 以外のマイクロソフト サブスクリプションにも、Dataverse のキャパシティの権利を付与するものがあります。Project Online の詳細については[こちらのページ](#)を、その他の権利に関する情報は [Dynamics 365 ライセンスガイド](#)を参照してください。

Dataverse は、Outlook や SharePoint と統合できます。

Dataverse のキャパシティ - キャパシティの種類と目的

種類	目的
データベース	テーブルの定義とデータを格納および管理します。
ファイル	Dynamics 365 Sales/Customer Service/Field Service アプリケーションおよび Power Apps のメモやメールの添付ファイルを保存します。これらの添付ファイルには、ドキュメント、画像ファイル、動画、PDF ファイルなど、組織が必要とされる重要なファイルが含まれます。
ログ	テーブルおよび列データの変化を経時的に記録して、分析やレポートの目的で使用できるようにします。ログ キャパシティを使用すると、組織は監査、コンプライアンス、ガバナンス ポリシーを満たすことができます。

Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents、Dynamics 365 Sales/Customer Service/Field Service のいずれかのサブスクリプションを初めて購入すると、そのテナントに既定のキャパシティの権利が 1 回のみ提供されます。たとえば、新規のお客様が「Power Apps per user プラン」を購入した場合、そのテナントには既定の 10 GB の Dataverse データベース キャパシティが提供されます。追加のサブスクリプションを購入しても、テナントの既定のキャパシティが増えるわけではありません。

テナントに追加のサブスクリプションを追加すると、Dataverse の追加のキャパシティがそのテナントに割り当てられます。

例:

新規のお客様が最初に Power Apps per user ライセンスを 10 シート、Power Apps per app ライセンスを 20 シート購入したとします。この場合、テナント全体でプールされた合計キャパシティは以下ようになります (注: 1 GB = 1,024 MB)。

既定および付加分のキャパシティ割り当て	既定/テナント	Enterprise USL 10 シートあたりの付加	テナント全体の合計キャパシティ
Dataverse のデータベース キャパシティ	10 GB	10*250 MB + 20*50 MB = 3.5 GB	10 GB + 3.5 GB = 13.5 GB
Dataverse のファイル キャパシティ	20 GB	10*2GB + 20*400MB = 28GB	20 GB + 28 GB = 48 GB
Dataverse のログ キャパシティ	2 GB	なし	2 GB

キャパシティ アドオン

サブスクリプションで提供されるキャパシティを追加する必要がある場合（データベースやファイル キャパシティの追加など）、サブスクリプションに以下のオプションのアドオン ライセンスを追加することができます。サブスクリプション アドオンはテナント全体に適用されるものであり、特定のユーザーに関連付けられるものではありません。サブスクリプション アドオンはいつでも購入でき、サブスクリプションの残りの期間を通してサブスクリプションの一部として使用できます。

Dataverse (Common Data Service) キャパシティ アドオン

Dataverse (旧称 Common Data Service) を利用するアプリまたはフローによって、データベース キャパシティ、ファイル キャパシティ、ログ キャパシティの消費量は異なるため、必要な Power Apps および Power Automate 環境も異なる可能性があります。アプリでフローを利用する場合もあれば、アプリとは別にフローを実行する場合もあります。

それぞれの種類のユーザー単位のライセンス (Office 365、Dynamics 365 アプリケーション、Power Apps および Power Automate プランのスタンドアロン ライセンス) には、これらの基本リソースのキャパシティが 1 種類以上含まれます。これらの権利は、お客様のテナント レベルでプールされ、ユーザー間で共有されます。

テナントあたりのサブスクリプション キャパシティ	追加購入単位
Dataverse (Common Data Service) のデータベース キャパシティ	1 GB
Dataverse (Common Data Service) のファイル キャパシティ	1 GB
Dataverse (Common Data Service) のログ キャパシティ	1 GB

Dataverse (旧称 Common Data Service) のキャパシティ アドオンは、Dataverse for Teams のシナリオには適用されません (例: Dataverse for Teams 環境が上限に達した場合、キャパシティを増やすには、スタンドアロンの Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents プランのいずれかにステップアップする必要があります)。

AI Builder キャパシティ アドオン

サービスの概要

AI Builder は、人工知能 (AI) の技術的な使用経験を問わず、あらゆる人々を支援します。このソリューションを使用することで、アプリとビジネス プロセスの両方に AI 機能を簡単に追加できます。AI Builder では、予測、名刺リーダーなど、さまざまなシナリオをサポートしています。AI Builder の詳細については、<https://powerapps.microsoft.com/ja-jp/ai-builder/> を参照してください。

ライセンスの概要

AI Builder のライセンスは、Power Apps および Power Automate のスタンドアロン ライセンスと Dynamics 365 ライセンスのアドオンとして提供されます。

AI Builder のライセンスは、キャパシティ ベースで提供されます。AI Builder のキャパシティは、「サービス クレジット」の形で示されます。サービス クレジットは、AI Builder でサポートされるすべてのシナリオで単一 (共通) の通貨となり、AI Builder サービスを使用した場合に使用可能なサービス クレジットが差し引かれます。シナリオ (フォーム処理、予測など) によってサービス クレジットの消費レートは異なります。

すべてのシナリオにおける使用量の予測に基づいて、適切な数の AI Builder キャパシティ アドオンを購入してください。

オファーの詳細	
SKU の名称	AI Builder キャパシティ アドオン
ライセンスの種類	テナント全体のキャパシティ ライセンス
権利	月 100 万のサービス クレジット
対象の基本ライセンス	Power Apps、Power Automate、Dynamics 365 ライセンス

各「AI Builder キャパシティ アドオン」には、月 100 万のサービス クレジットが含まれています。たとえば、(使用量の予測に基づいて) 月に 470 万のサービス クレジットを必要とする場合は、「AI Builder キャパシティ アドオン」を 5 つ購入します。

注:

- 購入したサービス クレジットは、Power Automate、Power Apps、Dynamics 365 アプリケーションに含まれる AI Builder モデルから使用できます。
- サービス クレジットは、トレーニング環境と運用環境の両方で消費されます。
- サービス クレジットはテナント全体でプールされます。

キャパシティの適用

AI Builder キャパシティ アドオン SKU の場合、購入したキャパシティは 1 か月ごとに適用され、未使用のサービス クレジットを翌月に繰り越すことはできません。

超過使用分の処理

正当な理由があって時おり超過する分には構いませんが、購入したキャパシティを超過する場合は、コンプライアンスを維持するために、標準的なマイクロソフトの使用条件に従って購入数量を調整してください。

お客様による AI Builder のキャパシティ管理をサポートするために、包括的な監視、レポート、アラート メカニズムが導入されます。使用量が購入したキャパシティを大幅に超える場合には、より厳格な技術的対応 (サービス拒否など) が行われます。

購入したキャパシティの割り当て

購入したキャパシティの適切な Power Automate、Power Apps アプリケーション、Dynamics 365 ワークロードへの割り当ては、製品内で管理されます。割り当てにより、重要な AI モデルのキャパシティを確保できます。割り当ての最小キャパシティは 1 サービス クレジットです。

Power Apps および Power Automate キャパシティ アドオン

Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents、Dynamics 365 のユーザー/ワークロードが割り当てを上回る使用量のキャパシティを必要とする場合は、Power Apps および Power Automate キャパシティ アドオンによって 1 日あたりの Power Platform 要求を引き上げることができます。サービスの上限の詳細、および各種ライセンスに適用される 1 日あたりのサービスの上限については、<http://aka.ms/platformlimits> を参照してください。

オファーの詳細	
SKU の名称	Power Apps および Power Automate キャパシティ アドオン
基本ライセンス	Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents、Office 365、Dynamics 365 のライセンス
キャパシティの権利	ユニットにつき 1 日あたり 10,000 回の追加の Power Platform 要求
キャパシティの割り当て	製品内

キャパシティの適用

Power Apps および Power Automate キャパシティ アドオン SKU の場合、購入したキャパシティは 1 日ごとに適用され、未使用/未割り当ての Power Platform 要求を翌日に繰り越すことはできません。また、割り当てられたキャパシティはユーザー/フロー固有のキャパシティとなります。

超過使用分の処理

正当な理由があって時おり超過する分には構いませんが、ライセンスを取得したキャパシティを超過する場合は、コンプライアンスを維持するために、標準的なマイクロソフトの使用条件に従って購入数量を調整してください。

購入したキャパシティの割り当て

アドオン サブスクリプションを購入したら、テナント管理者は購入したキャパシティを特定のユーザーやフローに割り当てる必要があります。割り当ての最小キャパシティは 1 日あたり 1,000 回です。

Power Virtual Agents キャパシティ アドオン

Power Virtual Agents キャパシティ アドオンにより、テナントあたりのチャットボット セッション数と 1 日の Power Platform 要求を引き上げることができます。

オファーの詳細	
SKU の名称	Virtual Agents 用チャット セッション
購入要件	Power Virtual Agents
キャパシティの権利	テナントあたり月 1,000 回
1 日あたりの Power Platform 要求	15,000

トライアルと実装

無料トライアル

Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents の無料トライアルにサインアップできます。詳細については、以下を参照してください。

- Power Apps は[こちら](#)
- Power Automate は[こちら](#)
- Power Virtual Agents は[こちら](#)

Power Apps および Power Automate による開発とテスト

無料の Community Plan は個人使用を想定したもので、開発者は Power Apps、Power Automate、Dataverse (旧称 Common Data Service) を学習し、スキルを習得することができます。詳細については、[こちら](#)を参照してください。

Power Platform サービスのサポート

サポート プラン

MOSP、EA、MPSA、EAS、EES を通じて Power Platform ソリューションのライセンスを取得した場合は、[サブスクリプション サポート プラン \(英語\)](#) に記載されている特典を受けることができます。Dynamics 365、Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents のサポートに関する詳細については、[こちら](#)を確認してください。

- [Professional Direct サポート \(英語\)](#)
- [エンタープライズ ソリューション - 統合サポート \(英語\)](#)

価格

Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents の価格表については、以下を参照してください。

- Power Apps: <https://powerapps.microsoft.com/ja-jp/pricing>
- Power Automate: <https://flow.microsoft.com/ja-jp/pricing>
- Power Virtual Agents: <https://powervirtualagents.microsoft.com/ja-jp/pricing/>

関連情報

リソース	リンク
Power Apps サービス	https://powerapps.microsoft.com/ja-jp/
Power Automate サービス	https://flow.microsoft.com/ja-jp/
Power Virtual Agents サービス	https://powervirtualagents.microsoft.com/ja-jp/
Dynamics 365 ライセンス ガイド	https://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=866544&clid=0x411

付録 A: 用語とカスタム テーブル

管理: 管理は、組織内における Power Apps の使用に関する境界やポリシーを確立するうえで重要です。

- 環境の管理 - データ、アプリ、フローを保存、管理、共有する場所
- データ ポリシー - データの共有方法を定義するポリシーを作成、適用

アプリ (Power Apps per app の定義): 「アプリ」とは、特定のビジネス シナリオを解決する Power Platform 資産の組み合わせを指します。

- 各「per app」ライセンスにより、1 つのポータルと 2 つのカスタム アプリ (モデル駆動/キャンバス) の使用権が提供されます。
- 他のコンポーネント (フォーム、ダッシュボードなど) には上限はありません。

アプリケーション プログラム インターフェイス (API): マイクロソフトのサービスおよび関連ツールへのアクセスを提供する任意の形式のアプリケーション プログラミング インターフェイスです。たとえば、マイクロソフトのサービスを操作できるサンプルコード、マイクロソフトがこれらの使用条件の下で提供するドキュメントなどがあり、当該 API のすべての要素、コンポーネント、実行可能ファイルが含まれます。

アプリケーションの種類:

- **キャンバス アプリ:** 従来のプログラミング言語でコードを記述することなく、Microsoft Power Apps のキャンバスからビジネス アプリケーションをデザインおよび構築できます。キャンバスに要素をドラッグ アンド ドロップすることでアプリケーションをデザインでき、アプリのレイアウトを完全に制御できます。
- **モデル駆動アプリ:** データ モデルやビジネス プロセスを基盤としてアプリを開発する、コンポーネント中心のアプローチでデザインを行います。デザイナーがアプリケーションのレイアウトを完全に制御できるキャンバス アプリの開発とは異なり、モデル駆動アプリの場合は、主にアプリケーションに追加するコンポーネントによって、レイアウトの大部分が自動的に決まります。

コネクタ: ユーザーがビジネス データに接続する手段です。一連の既成のアクションやトリガーを活用して、アプリケーションやワークフローを構築できます。接続の例: Dataverse (旧称 Common Data Service)、SharePoint、SQL、OneDrive、Excel、Dynamics 365。

- **標準コネクタ:** Microsoft 365 エコシステム内のデータ ソースに接続します。例: Excel、Outlook、SharePoint、LinkedIn。標準コネクタの一覧については、[こちら](#)を参照してください。
- **プレミアム コネクタ:** Microsoft 365 以外のビジネス システムに接続します。例: DocuSign、Zendesk、Jira Software。
- **カスタム コネクタ:** ニーズに即したシナリオをサポートするために、独自のトリガーやアクションを備えたカスタム コネクタを作成できます。これらのコネクタは関数ベースであり、基礎となるサービスの特定の関数の呼び出しに基づいてデータが返されます。例: 既成のコネクタで利用できないサービス。
- **オンプレミス コネクタ:** ゲートウェイを使用してオンプレミス データにアクセスします。例: Microsoft SQL Server。

CRUD: 作成、読み取り、更新、削除の各操作を指します。

Dataverse (旧称 Common Data Service): Dataverse では、ビジネス アプリケーションで使用するデータを格納、管理できます。

Dataverse を基盤とする Dataverse for Teams は、Microsoft Teams 向けの組み込みのローコード データ プラットフォームであり、リレーショナル データ ストレージ、豊富なデータ型、エンタープライズ クラスのガバナンス、ワンクリックのソリューション展開機能を提供します。

Dataverse はあらゆるアプリケーション (Teams だけでなく) で使用できるよう設計されており、監査、共有、列レベルおよび階層型のセキュリティなどの高度なセキュリティ機能が備わっています。Dataverse for Teams と Dataverse の詳細な機能比較については、[こちら](#)の公開ドキュメントを参照してください。

デスクトップ フロー: RPA 市場をターゲットとする Power Automate の機能で、レガシ アプリを GUI (API ではなく) を通じて自動化します。

- デスクトップ フローを通じて実行されるプロセスは、幅広い API ベースの自動化シナリオや既存のスタンドアロン製品に含めることができます。

フロー (アプリのコンテキスト内のフローの定義): トリガーとアクションの両方について、フローを埋め込むアプリケーションに含まれるフローは以下に接続できます。

- フローを埋め込むアプリケーションの使用権に含まれるデータ ソース
- フローを埋め込むアプリケーション本体 (組み込みのトリガー/アクションを使用)

ロボティック プロセス オートメーション (RPA): アプリケーションのグラフィカル ユーザー インターフェイス (GUI) の使用を含むプロセス自動化の分野。ユーザーが自動化テクノロジーの一連のステップ、アクション、タスクを記録し、GUI で直接反復することによりプロセスを実行します。

RPA ロボットまたは「ボット」: デスクトップまたは仮想化環境で実行される GUI ベースのプロセスのことです。

- **有人 (Attended) ボット:** ワークステーション (ローカルやリモート デスクトップ) で明示的なユーザー アクションによってトリガーされます。
 - 同じワークステーションでユーザーと同時に動作する必要があります。
 - 複数のプロセスを実行できるが、連続して実行するためには各プロセスをシリアル化する必要があります。
- **無人 (Unattended) ボット:** ユーザーの操作なしに自律的に動作します。
 - ローカルやリモート デスクトップといった仮想化環境で展開できます。
 - 複数のプロセスを実行できるが、連続して実行するためには各プロセスをシリアル化する必要があります。
 - 単一プロセスで複数のインスタンスを並行して実行するには、インスタンスごとに追加の無人ボットが必要で

テーブル: データを格納するために使用するレコードのセットです。テーブルがデータベース内のデータを格納するのと同様です。テーブルを使用すると、組織のビジネス アプリケーション内で使用するビジネス データをモデル化できます。テーブルの例: 取引先企業、取引先担当者、潜在顧客、営業案件。

- **標準テーブル:** Dataverse (旧称 Common Data Service) では、あらゆるビジネス アプリケーションで特によく使用されるテーブルを表すビジネス テーブルのセットが標準で提供されます。例: 取引先企業、予定、取引先担当者、メール。
- **カスタム テーブル:** 特定のビジネス ニーズに対応するためにお客様/パートナーによって作成されるテーブルです。たとえば、マシンの種類は標準テーブルにはないため、カスタム テーブルとして作成できます。
- **制限付きテーブル:** フル アクセスするために Dynamics 365 ライセンスが必要となるテーブルです。例: サポート案件、SAL、サポート情報記事。制限付きテーブルの一覧については、[こちら](#)を参照してください。
- **複雑なテーブル:** サーバー側の複雑なビジネス ロジックを使用するテーブルです。お客様/パートナーがテーブル (標準またはカスタム) をカスタム ビジネス ロジックに関連付けると、そのテーブルは複雑なテーブルになります。例: リアルタイム ワークフローまたはコード プラグインを使用するテーブル。

ワークフロー:

- **バックグラウンド ワークフロー:** システムおよびサービス全体のタスクを自動化します。バックグラウンドで実行されます。
- **リアルタイム ワークフロー:** システムおよびサービス全体のタスクを自動化します。リアルタイムで実行されます。
- **ビジネス プロセス フロー:** 人間が操作できるステートフルな構造化ワークフローです。複数のステップから構成され、分岐/ステージ ゲーティングが可能です。プロセス KPI やレポートなどが含まれます。

付録 B: Power Platform の機能を含む Dynamics 365、Office 365、Windows のライセンス

Dynamics 365

対象ライセンス	対象ライセンスに含まれる限定的な使用权	
	Power Apps	Power Automate
Dynamics 365 Sales Enterprise	•	•
Dynamics 365 Sales Professional	•	•
Dynamics 365 Customer Service Enterprise	•	•
Dynamics 365 Customer Service Professional	•	•
Dynamics 365 Field Service	•	•
Dynamics 365 Project Operations	•	•
Dynamics 365 Team Members	•	•
Dynamics 365 Finance	•	•
Dynamics 365 Supply Chain Management	•	•
Dynamics 365 Commerce	•	•
Dynamics 365 Human Resources	•	•
Dynamics 365 Operations – Activity	•	•
Dynamics 365 Business Central	•	•
Dynamics 365 Business Central Team Members	•	•

I

Microsoft 365*、Office 365、Windows

対象ライセンス	対象ライセンスに含まれる限定的な使用権				
	Power Apps	Power Automate		Power Virtual Agents for Teams	Dataverse for Teams
		クラウドフロー	デスクトップフロー		
Office 365 E1	•	•	-	•	•
Office 365 E3	•	•	-	•	•
Office 365 E5	•	•	-	•	•
Office 365 F3	•	•	-	•	•
Microsoft 365 Business Basic	•	•	-	•	•
Microsoft 365 Business Standard	•	•	-	•	•
Microsoft 365 Business Premium	•	•	•	•	•
Microsoft 365 F1	-	-	-	-	-
Microsoft 365 F3	•	•	•	•	•
Microsoft 365 E3	•	•	•	•	•
Microsoft 365 E5	•	•	•	•	•
Windows 10 Pro	-	-	•	-	-
Windows Enterprise E3	-	-	•	-	-
Windows Enterprise E5	-	-	•	-	-
Office 365 A1 for Faculty	•	•	-	-	-
Office 365 A1 for Students	•	•	-	-	-
Office 365 A1 Plus for Faculty	•	•	-	-	-
Office 365 A1 Plus for Students	•	•	-	-	-
Office 365 A3 for Faculty	•	•	-	•	•
Office 365 A3 for Students	•	•	-	•	•

Office 365 A3 for Student Use Benefit	•	•	-	-	-
Office 365 A5 for Faculty	•	•	-	•	•
Office 365 A5 for Students	•	•	-	•	•
Office 365 A5 for Student Use Benefit	•	•	-	-	-

*Microsoft 365 は、Microsoft 365 製品エントリのライセンス条項によって変更された、Microsoft 365 を構成する個別の製品およびサービスのライセンス条項に準拠します。Microsoft 365 および Office 365 スイートのライセンス チャンネルと対象セグメントの詳細については、[製品条項とオンライン サービス条件](#)を参照してください。

付録 C: 変更履歴

ページ	項目	変更点	対応	日付
全般	Microsoft Dataverse	更新	用語を「エンティティ」から「テーブル」に変更	2021年5月
19	Power Virtual Agents	新規	Dynamics 365 アプリケーションに含まれる Power Virtual Agents の使用権	2021年5月
全般	サブスクリプション キャパシティ	更新	Power Apps および Power Automate	2021年5月
全般	1日あたりの API 要求の上限	ブランド変更	「Power Platform 要求」にブランド変更	2021年5月
全般	Power Virtual Agents	明確化	1日あたりの API 要求の上限	2021年4月
7	Power Apps ポータル	明確化	エンドユーザーの種類	2021年3月
全般	Power Automate	新規	Windows ライセンスに含まれる Power Automate の使用権	2021年3月
全般	Power Automate	更新	UI フローの分類を「デスクトップ フロー」に変更	2020年12月
全般	Dataverse for Teams	新規	Office 365 ライセンスに含まれる Power Apps と Power Automate の使用権	2020年11月
全般	Common Data Service	ブランド変更	Microsoft Dataverse にブランド変更	2020年11月
17	Power Virtual Agents	新規	Office 365 ライセンスに含まれる Power Virtual Agents for Teams の使用権	2020年11月
24、25	付録 B	明確化	含まれる機能	2020年11月
21	関連情報	削除	Dynamics 365 Business Central/Mixed Reality ライセンス ガイド	2020年11月
10	Power Automate	更新	Power Automate per flow SKU の名前	2020年10月
全般	Power Automate	明確化	フローの種類分け	2020年10月
15	Power Virtual Agents	明確化	フローの使用権	2020年10月
22	付録 B	削除	セクションと表を削除	2020年10月
全般	Power Automate	明確化	フローの種類分け	2020年8月
10	Power Automate	明確化	WinAutomation クライアント機能	2020年8月
4、5	Power Apps	明確化	Power Apps プランの Power Automate 使用権	2020年8月
7	Power Apps ポータル	明確化	エンドユーザーの種類/外部ユーザー	2020年8月
23	付録 C	更新	対象となる Office 365 ライセンス	2020年7月
14	Power Virtual Agents	明確化	ライセンスの概要	2020年7月
14	Power Virtual Agents	明確化	ライセンスの概要	2020年5月
15	Power Virtual Agents	明確化	セッションの定義	2020年5月
23	付録 C	更新	対象となる Office 365 ライセンス	2020年5月
全般	Power Automate	新規	有人 RPA を含む Power Automate per user プラン	2020年4月
全般	Power Automate	新規	Power Automate 無人 RPA アドオン	2020年4月
15	Power Virtual Agents	更新	セッションの定義	2020年4月
15	Power Virtual Agents	明確化	ボットの権利	2020年4月
4	Power Apps	明確化	オファアの概要表にあるライセンスの種類	2020年4月

© 2020 Microsoft Corporation. All rights reserved.

このドキュメントに記載された内容は情報の提供のみを目的としています。明示または黙示にかかわらず、この内容に関してマイクロソフトはいかなる責任も負わないものとします。この情報はライセンスを受けた製品を正しくご使用いただくためのガイドであり、お客様との契約ではありません。ライセンス契約に基づきライセンスを受けた製品の使用については、当該契約に定める契約条件に規定されます。この情報と契約の間に齟齬がある場合は、契約の条項が優先されます。マイクロソフトのリセラーを通じて取得するライセンスの価格は、代理店によって決定されます。